



横浜市立万騎が原中学校 学校だより

桐の花

令和3年

9月21日

校長 中村 雅一

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

『学校再開』にあたって

校長 中村 雅一

全国のおよそ3分の2以上の都道府県が緊急事態宣言やまん延防止等重点措置にある中、学校がはじまりました。さらに、東京や神奈川など19都道府県では緊急事態宣言が月末まで延長され、学校を全面的に再開するかどうか、自治体の判断も割れました。通常通り一斉の対面授業を開始した所がある一方で、休校や分散登校、短縮授業を続ける地域、はたまた対面とオンラインの両方や選択制をとるなど、対応もさまざまです。加えて、学校内の感染拡大を懸念して部活動の休止、修学旅行や体育祭などの学校行事の中止や延期等の対応がとられ、子どもたちの学校生活が収束の見えないコロナに振り回されています。

横浜市立の小中学校では、宣言延長で「短縮授業の分散登校」は月末まで続きますが、新たな変更点としては、平時の時間帯まで授業時間を延長できるようになり、本校は45分授業を6校時まで基本、行うこととしました。その背景には、一つに分散登校において、家庭学習のグループは欠席とせず公簿上は「出席停止」と記録されるのですが、家庭でのオンライン授業は、「出席」ではない「出席停止」中に行われる等のため「授業時数としてカウントできない（文科省の見解）」という事情があります。そのため、文科省は各学校で、家庭でオンライン授業に参加した日数等について指導要録に明記するよう指示し、高等学校入学者選抜等で志願者がコロナ関連の出席日数等の記載により不利益を被ることのないよう、各教育委員会、高校に求める通知を9月10日に出しています。

さて、今回の第5波は、東京オリンピック・パラリンピックの開催へと進む東京都に対し、7月12日から8月22日まで、通算4回目となる「緊急事態宣言」が出され、宣言は神奈川県など21都道府県に拡大しました。東京や神奈川などは医療崩壊の危機を迎え、自宅療養を余儀なくされた人たちの中で亡くなるケースが出るという惨事に見舞われ、未だ収束に至ってません。この爆発的な感染の原因としては、「人の流れ」の増加に加えて、感染力の非常に強いデルタ株が影響していると言われています。特に感染した人から飛び散るウイルスを含む微小な粒子（エアゾル）による感染が主な感染経路であると考えられるようになっている現在、マスクのつけ方や換気がより重要になっています。

また、文科省によると小中学生の感染の6～7割は家庭内で起きている、と言います。夏休み中には部活や塾などでのクラスターも発生しました。文科省からは子どもの感染増加を受けて、学校で感染が発生した場合の対応ガイドラインも、「学級閉鎖、学年閉鎖、学校閉鎖」と段階的に対応するよう指示が出ています。子どもの健やかな学びの保障と子どもの心身への影響等の観点からも「地域一斉の臨時休業は避ける」という方針です。よって、学校がはじまった今、大切なことは、学校の入り口の対策として、ちょっとでも体調が悪い時は登校しない、教職員は出勤しないで休むこと。家庭内感染防止においては、まずは親が家庭に持ち込まないためにも、例えばワクチンを打つこと（ただし、今は打ちたくても打てないという状況や打てない事情のある方もいらっしゃる）、個別の事情等には十分配慮しなければなりません。そして、いざという時に、学習や生活に支障をきたさないよう「学級閉鎖や休校という強い感染対策」がいつでも取れるように準備をしておくことが必要です。「オンライン授業」はその休校や学級閉鎖のための選択肢であると今は考え、「オンライン学習」の導入を試行しています（もちろん、その先には、国の進めようとする小中学生のために一人一台の学習用PCと高速ネットワーク環境などを整備して、子どもたち一人ひとりに応じた学びを可能にしていくための5年間の計画、「GIGAスクール構想」という、「学びの構造変換」の実現があります）。

そして、子どもたちの感染ですが、幸い今のところ基礎疾患のない10代の子どもの重症化例はないようですが、今後は登校による子ども間の感染が起き、その子どもから家庭の親への感染という「感染ルート」の循環が起きることが懸念されています。重症者や中等症の人が入院・治療を受けられる医療体制の整備は、今度こそ早急に進められなければなりません。ワクチン接種の拡充や治療薬の完成、整備についても同様です。

あわせて、より注意したいのが、感染予防を声高に叫べば叫ぶほど、感染した人が悪いとか、注意不足であると「自己責任化」されやすくなっていくことです。本当はどんなに注意していても、かかるときはかかるという「偶然性」や「運の領域」というのが多分にあるのですが、それを「自己責任論」でネガティブな感情や価値観を貼り付け、ラベリングした時に「偏見」が生じます。「偏見」は心の中で起きるのですが、それがさらに行動となって現れれば、それは「差別」であり「いじめ」です。コロナにかかった人を排除したり、ヘイト的な言動をしたり、メディアなどで必要のない謝罪をさせるようなことになることには自覚しなければなりません。感染対策を無視した行動は厳に慎まなければいけません。感染症予防の注意喚起がネガティブな感情で感染した人の存在自体の価値を下げるようなことにならないよう、留意しながら感染症のメッセージを送らなければいけないと考えています。

(裏へ)

よく言われることですが、人々を同じ方向に向ける時に有効なのは、「危ない」とか、「全体のためにやらなければいけない」という発信です。感染症対策においても「一人ひとりの人権よりも全体の安全」、「個のレベルで大事にすべき価値を「集団の価値」で抑圧する「セキュリティのため」という同調圧力が加わっていないか注意をしていきたいです。社会を構成している一人ひとりには当たり前ですが、皆、違う顔を持ち、バックグラウンドも一人ひとり違います。その「違い」というものをよく見ながら個別の事情に配慮した感染症対策が行われなければなりません。同時に、自分の判断が他人と違って不安になったり悩んだりすることがありますが、それに耐えることも時に求められます。それに耐えられずに他者を非難したり攻撃したりするようになれば、人々の間で分断・対立を招き、社会は不安定になるばかりです。教育現場も混乱し、結果的に子どもの教育の機会を奪うことになっていきます。宣言下の今は、子どもの教育の機会（友だちとの人間関係など生活面も含む）を確保することを前提に、一人ひとりが感染リスクとどう向き合うかがポイントになるのだと思います。感染リスクを『ゼロ』にすることはできませんが、どこまでのリスクであれば許容できるのか、一人ひとりが考えねばいけません。

終わりに、コロナ禍によるGIGAスクール構想の前倒しなどもあり、日本の学校教育の姿は今、大きく変わろうとしています。この変革が何を指しているものなのか、どんな子どもたちを育てるためなのかをイメージしつつ、また、学びの個別化・協同化という「学びの構造転換」をしていくことが、「Withコロナ時代」の学校に求められるのだと思います。多様な価値観のもと、子どもが安心して教育を受けることができる環境を作ることが私たち大人の責務です。そのための議論は今後、益々されなければなりません。考えや教育観の「違い」が分断を生んだり、オンライン授業の推進が格差を助長することになったり、さらには一部の人の利益のために分断や格差、差別が利用されることには十分な注意が必要で、決してあってはならないことです。

「With コロナ時代の学校をどう作り直すか」という問いに、今後も教職員、生徒、保護者、地域の皆さまと共に考え、学校を創っていきたいと思います。厳しい状況が続きますが、子どもたちの明るい未来のために、今後ともお力をお貸ししていただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。また、ご相談などありましたら遠慮せず学校までご連絡ください。
(令和3年 9月15日)

万騎が原中 夏の活躍

今年の夏は、2年ぶりに中体連による夏の大会が開催されました。観戦、応援等は制限される会場が多かったのですが、各会場で熱戦が繰り広げられました。多くの部では、3年生が引退となりました。コロナ禍での部活動は、様々な制約の中での活動となったと思いますが、それぞれに技術の向上、チームの勝利を目指して一生懸命に日々の練習に励んできたと思います。3年生は、中学校での部活動を通して学んだ多くのことを、これからの自身の生活の中に生かしてほしいと思います。1・2年生は万騎中の伝統を受け継ぎ、これからも自身の成長につなげられるよう頑張ってください。

全国大会出場

水泳部

第61回全国中学校水泳競技大会【千葉県習志野市】

<女子4×100mリレー>

男子バレーボール部

第35回 全国都道府県対抗バレーボール大会（12月開催）

神奈川県代表選手に選出

関東大会出場

水泳部

第45回関東中学校水泳大会【横浜国際プール】

<男子100m平泳>

<女子200mバタフライ> <女子100mバタフライ>

県大会出場

ソフトボール部

〈市大会3位〉 ➡ 県大会出場〈3位〉

柔道部

県大会（個人） 出場

サッカー部

〈市大会ベスト8〉 ➡ 県大会出場〈ベスト8〉

男子バレーボール部

〈市大会ベスト16〉 ➡ 県大会出場

卓球部

（男子団体）〈市大会5位〉 ➡ 県大会出場〈5位〉 （個人）〈市大会17位〉 ➡ 県大会出場

陸上競技部

女子共通4×100mリレー 〈市大会7位〉 ➡ 県大会出場

女子低学年4×100mリレー 〈市大会4位〉 ➡ 県大会出場

男子200m

〈市大会6位〉 ➡ 県大会出場

男子3000m

〈市大会6位〉 〈市大会12位〉 ➡ 県大会出場

女子200m

〈市大会5位〉 ➡ 県大会出場

女子走高跳

〈市大会4位〉 ➡ 県大会出場

水泳部（3年）

去年は、予選会が中止になってしまっていて、やりきれない思いもあったので、今回全国大会という舞台に出られて、本当に嬉しいです。本番では、とても緊張してしまっていて、自分のタイムは良いものではありませんでした。でも、チームとしてのベストを更新できたし、とてもいい経験になったと思います。結果は9位と悔しいものではあったけど、このメンバーで泳げてとても楽しかったです。これからは勉強に集中して、高校生になってもまた水泳を続けたいです。

水泳部（3年）

予選会では、個人の種目で制限タイムを切ることができませんでしたが、フリーリレー神奈川3位で全国大会のタイムを切ることができてうれしかったです。全国大会前は、雨で引継ぎを確認することができず、心配でした。全国大会では、予選会や県大会よりもタイムを縮められ、タイミングよく引き継ぐことができました。入賞まであと少しでしたが、力を合わせて泳ぐことができ、思い出になりました。これからも頑張っていきたいです。

水泳部（2年）

予選では、全国大会出場がかかった大会という事で、とても緊張しましたが、がむしゃらに泳いで、全国大会出場をつかむことができ、とても嬉しかったです。全国大会では、普通の大会では、味わうことのできない空気感があり、その場で泳げることが楽しかったです。チームのみんなと、アップをして、予選の時とは違って、緊張せずに準備することができました。そして、チームみんなと楽しみながら泳ぐことができました。結果は、惜しくも、9位で入賞することができなかったけど、このチームで泳ぐことができてよかったと思います。これからもたくさん練習して、来年は、個人でも全国大会に出場できるように頑張ります。

水泳部（1年）

私は、とても素晴らしい体験をさせてもらいました。全国大会の予選の時、楽しみもあり緊張もしていました。タイムを突破したときは、本当に嬉しかったです。最初は先輩たちに迷惑かけないか心配だったけど楽しく泳げました。全国大会本番、最後のリレーだったので精一杯頑張りました。結果は悔しかったけど、先輩たちと一緒に「全国」という舞台に立てて最高だと思いました。これからも「全国」という舞台に立てるよう一生懸命頑張っていきたいです。

男子バレーボール部（3年）

JOC 選抜の連絡を頂いたとき、自分には選ばれるような実力は無いと思っていたので、驚きました。県内から集まる上位校のメンバー達と同じチームとして自分は何か貢献できるだろうかと不安や心配もありますが、自分が持っているものを最大限に生かして、また、思いきり楽しんで参加したいです。最後に未経験だった自分をここまで成長させてくださった小佐野先生、一緒に高め合ってくれた万騎が原中男子バレー部の部員のみんな、そして、ここまで応援してくれた家族にはとても感謝しています。よい成績を残せるように精一杯頑張ります。